



紀伊山地の霊場と参詣道

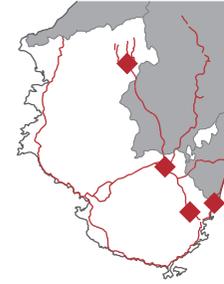
熊野本宮大社

文化財巡礼のしおり



紀伊山地の霊場と参詣道 文化財巡礼のしおり

「紀伊山地の霊場と参詣道」は、和歌山、奈良、三重にまたがっています。「熊野三山」「高野山」「吉野・大峯」という日本有数の聖地と、それらをつなぐ参詣道の文化的景観の価値が認められ、2004年に世界遺産に登録されました。今年で登録 20 周年を迎えます。



熊野那智大社

言わずと知れた那智滝、社殿（重文）に宝物殿と見所沢山。参詣曼荼羅や古代～中世の埋納品など、熊野の信仰を堪能。



熊野速玉大社

足利義満らによって奉納された、国宝の手箱などの至宝を展示。祭礼で使われていた重文の神輿や船も見ごたえたっぷり。



那智山青岸渡寺

西国三十三所の第一番札所。見所は豊臣秀吉が命じて作らせた本堂。直径 140cm の大鰐口や鎌倉時代の仁王像なども。



高野山

「山の正倉院」と呼ばれる国内屈指の文化財の宝庫。高野山霊宝館には約 3 万点の国宝・重要文化財を収蔵。



和歌山県立博物館

1 年を通じて「聖地巡礼—熊野と高野—」と題し、特別展を開催中。6/15 から 3/9 まで、時期を分けて熊野三山と高野山のそれぞれにスポットを当てます。



本リーフレットは、世界遺産を構成する寺社のうち、美術工芸品の展示公開施設を有する寺社を対象に作成しています。

発行日 / 2024 (令和 6) 年 7 月
編集・発行 / 和歌山県教育委員会



map

満山社

第一殿 第二殿 第三殿 第四殿

拝殿

神門

授与所

WC

社務所

宝物殿

駐車場

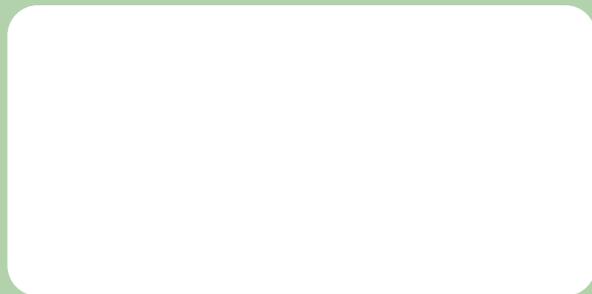


info 熊野本宮大社 宝物殿

和歌山県田辺市本宮町本宮 1110
Open 9:00-12:00, 13:30-16:00
入館料 大人 300 円
子供 100 円
開館日 土曜・日曜・祝日
※平日は閉館のため、拝観は要問合せ



stamp



熊野本宮大社

数々の宝物から、かつての本宮を想う

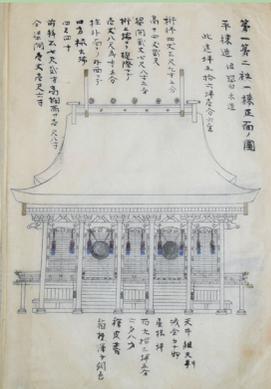


熊野本宮大社は、熊野造（くまのづくり）の堂々たる社殿（重要文化財）が見所。そのほかに、宝物殿では時の権力者に奉納され大事に守り伝えられてきた様々な宝物が展示されています。火災や水害に遭う前の、本宮大社の姿を知ることができます。

きいのくにひがしむ ろぐん
紀伊国東牟婁郡

ほんぐう くまのにますじんじやおよびせつまつしやめいさい ずしよ
本宮熊野坐神社及撰末社明細図書

明治14年（1881）に本宮大社が内務省に提出した書類の写し。明治22年（1889）の水害で流されてしまう前の、本宮大社の姿をかなり正確に知ることができます。その内容は、大社としての由緒から、社殿の図面や灯籠の数、敷地内にある木の数まで。杉を748本も所有していたそう。



頑張れば「建久」の字が見える！

てつゆがま
鉄湯釜

重要文化財

大きいなあ、くらいでスルーしてしまいそうですが…実はこの鉄湯釜、とても重要なものなのです。まず、銘文から、鎌倉時代の建久9年（1198）に作られたことが分かります。これは東大寺の釜（建久8年）に次いで日本で2番目に古いもの。そして何より、かつての熊野修験の在り方の証人でもあるのです。中世、熊野では釜で沸かしたお湯を振りかけることで参拝者や行者を清める「湯立て」が行われました。しかしいつしか行われなくなり、現在では愛知県の山奥などにその名残が伝わるのみ。この湯釜こそが、熊野で湯立てが行われていたことを今に伝えているのです。



しんがく
神額

県指定文化財

豊臣秀吉の息子、秀頼が慶長18年（1613）に奉納した神額。かつては社殿前の中門に掛かっていたといえます。左右の龍がかっこいい！痕跡から、元は全体が黒漆塗りで、龍や文字は金色だったことが分かります。

ぎほし
擬宝珠 県指定文化財



大齋原に渡る「本宮橋」の手すりの両端についていた飾り。紀州徳川家の初代藩主・頼宣が元和6年（1620）に寄進したもの。高さはなんと約100cm！擬宝珠がついていた石柱は、大齋原のかつて社殿が建っていたところに移設されています。こちら高さ約160cm！

おおゆのほら
熊野本宮大社と大齋原



熊野川の雄大な中洲に大鳥居が立つ「大齋原」。明治22年の大水害までは、ここに本宮大社がありました。水害により社殿のうち2棟が流失するという甚大な被害を受けたため、やむなく社地を今の場所に移したのです。江戸時代の絵図を見ると、中洲の真ん中に社殿が立ち並ぶ様子がよく分かります。さぞや壮観な眺めだったことでしょう。現在の社殿とあわせ、ぜひ大齋原でかつての本宮の景観を想像してみてください。